

## 年番町の役割

その年のくんちが円滑に進行するよう運営全体を取り仕切るのが「年番町」の役目です。

今年「榎津町(えのきづまち)」「金屋町」「新大工町」「新橋町」「諏訪町」「賑町」「西古川町」「磨屋町」「本紙屋町(もとかみやまち)」の『常磐会』が務め、裏方としてくんちを支えます。

### ☆年番町の主な役割



年番町の皆さんの打ち合わせの様子

### ☆「打ち込み」について

「小屋入り」の日の午後、踊町が他の踊町や年番町などへ挨拶まわりをする「打ち込み」が行われます。踊町の挨拶まわりに備え、踊町・年番町が設ける町事務所では、町旗や町提灯を掲げ、幔幕(まんまく)を張り、踊町を迎える準備をします。年番町の中でも当番町は冷たい飲み物などを準備して、いくつもの町事務所を巡る踊町をもてなします。

### ☆年番町の幹事町「賑町」の皆さん



#### 【知ってク情報!!】

お下り、お上りで、神輿に付き従う紋付を着た役員や子ども達は年番町の方たちです。

- ・「小屋入り」から始まる関係祭事への参列
- ・関係者の諸会議の運営
- ・奉納踊の立ち会い・進行管理
- ・お下り、お上りで神輿三体のお
- ・「くんちパンフ」の作成→
- ・関係先への挨拶まわり など

賑町集会所では年番町の役員さんが集まり、「小屋入り」の最終打ち合わせが行われました。6月1日の「小屋入り」での各々の役割について確認をしまし



年番町の新大工町が、「打ち込み」に来た江戸町を迎えます。

7年前と同様に、今年の年番町の幹事町を務める賑町自治会の福田禎右会長にお話を伺いました。

#### Q 年番町ではどんなことを?

A 衣装の発注や「くんちパンフ」の校正、諏訪神社や御旅所での役割分担を決めたりしています。

#### Q 町内の協力者は?

A 自治会総出でやっています。声をかけるとワッと一斉に集まってくれます。力仕事には町の若手が動いてくれ、くんちを通して町内が一つにな

## 令和元年 くんち瓦版 8月号 長崎くんちの舞台裏

発行: 令和元年 8月 23日  
長崎市地域支援室  
(中央地域センター内)  
長崎市桜町2番22号  
TEL 829-1418

長崎市のHPに「くんち瓦版」を掲載しています。→



夏の暑さは一段落しましたが、くんち本番に向けた稽古や準備は熱気を増えています!! くんち瓦版 8月号では、くんちを支える人々やくんちを通じた地域の人々のつながりをご紹介します。

### 諏訪三社の神輿のお下り、お上りは6年に1度巡ってくる大役

神輿守町:「西山神輿守連合会」 (上西山町上の切、上西山町下の切、下西山町、西山1~4丁目)

☆47年間神輿守に携わり、神輿守全体を統括する 三体総宰領 石谷忠善さん

担ぎ手、杖、宰領を務め上げ、今年2回目の総宰領を務める石谷さん。西山生まれの西山育ちで幼い頃から諏訪神社は身近な存在。学生時代は柔道で活躍され、長坂を駆け上がり体力をつけていたそう。諏訪神社は鍛錬の場でもあったと話します。

担ぎ手不足を懸念する石谷さん。地域の子供も達に神輿守の伝統を伝えたいと、地域の皆さんとともに平成27年から上長崎小学校の6年生に神輿の指導を行い、運動会で子ども



#### 子ども神輿の稽古の様



跳び箱を神輿に見立て、真剣に稽古を行います。神輿は地域の有志から上長崎小学校へ寄贈されたもの!

石谷さんは近い将来、子ども神輿を経験した子ども達の中から神輿守の担ぎ手が出てくることを願いながら指導にあたります。

神輿守でつながった西山4丁目成年部によって復活した鬼火焚き(平成31年1月)



### ☆西山4丁目成年部の活動をご紹介します

前回の神輿守の後、地域の伝統行事を継承しようと50年振りに鬼火焚きが復活。また、高齢者の安否確認を兼ねた資源ごみの回収や公園の草刈りなど成年部が精力的に活動をしてい

長崎くんちに関するお問い合わせはこちら  
長崎伝統芸能振興会(長崎商工会議所内)  
長崎市桜町4-1 TEL095-822-0111



踊町の情報やくんちのスケジュール、鑑賞券の情報が掲載されています。

~今回ご紹介する  
くんちを支える人たち~

- 1 西山神輿守連合会  
総宰領と西山4丁目成年部
- 2 江戸町  
囃子部副部長 高浪高彰さん  
(有)岡田造船所 岡田耕一さん  
ピラティスイストラクター ノビさん

江戸町



オランダ船

## 「コンミ！シャーレ！」 大海を渡るロイヤルブルー

出島築造に伴い、その門前町として発展し、長崎奉行所西役所など行政の重要な機関が設置されていた江戸町。演し物は江戸時代の頃からオランダに関係するもので、昭和58年から現在のオランダ船を奉納し、平成10年からこれにオランダ小船が加わりました。

江戸町の現在の世帯数は79世帯。曳物を奉納する町の中では小さな町になりますが、町内でお店を営む方たちも加わり、オランダ船の奉納を支えています。また、根曳衆は青年部に加わり、町内の活動でも活躍しているそうです。



根曳の「コンミ」、囃子の「シャーレ」の掛け声は、「俺達について来い！」「合点(がってん)だ！」の意味を表しているのだそう。

☆踊町の手ぬぐいのデザインも手掛ける

囃子部副部長

高浪 高彰さん



「長崎は歴史の宝庫。こんなに歴史のつまった町は日本の中でも長崎だけだと感じています。」と長崎の魅力を語る高浪さん。

江戸町で長崎の歴史を題材にした雑貨を扱うお店『たてまつる』を営む高浪さん。

「くんち本番中はかき入れ時で店を離れることはできないけど、できるときにできる範囲で町に協力したいと思い、子ども達の囃子の稽古のお世話を引き受けました。」と話します。

高浪さんのお店にはご本人がデザインしたものがたくさん並んでいますが、踊町の手ぬぐいのデザインを頼まれることもあるんだとか。今年は、江戸町オランダ船の手ぬぐいを

江戸町の方々が作ったタウンマップです。昨年商標登録された町章「タコのマクラ」の紹介をはじめ、江戸町の魅力あふれる歴史とお店の情報が盛りだくさん！！商店街のお店に置いてありますので、ぜひご覧ください！！

寛政年間(1789~1800)に在職のオランダ商館長が友好の証として江戸町に贈ったと言われる紋章「タコのマクラ」。江戸町のオランダ語綴り「JEDOMATI」のJとDとMを組み合わせた独特のデザインです。



江戸町の町章(タコのマクラ)



江戸町タウンマップ

## 伝承したい 長崎の技

(有)岡田造船所

岡田 耕一さん



磨き上げられた「オランダ船」の前で。優しい笑顔が印象的な岡田さんです。



鉄板を車輪に溶接する様子

☆数々の曳物の新造・修理を引き受ける

くんち曳物の船の補修等を数多く手掛ける岡田造船所。

中でも江戸町のオランダ船は、昭和58年に先代(岡田さんの父親)が新調したということで、思い入れが強いそうです。

木製の車輪に厚さ9ミリの鉄板を溶接することで、石畳での曳きまわしに耐えられるよう工夫されています。それでも稽古で鉄がすり減るので、本番前に鉄板を取り替えるそう。

トラブルはこれまでたくさんあり、諏訪神社の踊り馬場(おどりばば)で船が壊れて傾いたことや、船のマストが壊れた時には、傘鉾に時間稼ぎをしてもらい、その間に修理したこともあるそうです！

岡田さんは手掛けた船の本番には、必ず

### [知っトク情報!!]

巻き網漁の木船を造っていた技術が生かされた曳物の船は、本当に水に浮かぶよう設計されています！

☆ピラティスで根曳衆の体幹トレーニング  
インストラクター



ノルディックウォーキングのインストラクターの資格も持つノビさん。ピラティスの要素を取り入れた”ノビディックウォーキング”も毎月

オランダ船の根曳衆にピラティスの指導をしているのは、江戸町でCafeeBar

『Nobister』を営むノビさん。「医療に頼らない健康づくり」をフロリダ生活で学び、ピラティスのインストラクターの資格をとったのが10年前。日々の生活の中にピラティスを取り入れることで体幹が鍛えられ、痛みや怪我などが激減するそうです。オランダ船を指揮する長采の川添さんも、ノビさんから指導を受けるようになって根曳衆の姿勢が良くなったと、その効果を実感されていました。

ノビさんが江戸町のくんちに関わるのは7年前に続き二度目。ピラティスの指導を通して町内の方とも親しくなり、会合や行事にも参加する中で、「江戸町の一員になれた気が」